



## 講座のアピールポイント

当講座では、地域と国内における総合診療へのニーズの最も大きな一角を占めるテーマである「診断」に関連する研究を様々な視点から行っています。具体的には、①適切な診断のためのより良い思考方法や概念を開発する研究、②オンライン診療で身体診察を行う手法を開発する研究、③外来診察において人工知能(AI)を有効に活用するための方法を開発する研究、④身体診察や多くの医療機関で実施可能な簡易な検査を用いて重篤な病気を判断する方法の研究、⑤長引く発熱や長引く腹痛を抱える方の最終診断やその後の症状の推移を明らかにする研究が目下取り組んでいるテーマです。そのほか、診断が難しかった患者さんの診療から得られた知見を、症例報告という形式で数多く世界に発信し、診断がつかずに困っている患者さんや担当医師の役に立つ活動を行っています。

また、日本国内の複数の大学の総合診療系講座と共同して研究を行うとともに、医学生や若手医師に基礎知識を伝える学習会を数多く開催し、日本国内の医師全体の知識や技術の底上げにつながる活動にも積極的に参加しています。さらに、国際的医学誌などの編集委員などの仕事を通して、世界の総合診療の発展にも寄与しています。

## 講座の研究内容

当講座が実施している、適切な診断のためのより良い思考方法や概念を開発する研究と、オンライン診療で身体診察を行う手法を開発する研究は、日本においても数少ない施設でしか実施されておらず、当講座の特色のある研究と言えます。

適切な診断のためのより良い思考方法や概念を開発する研究は、全ての医師がより迅速かつ正確に診断することができるようになることを目的とし、脳科学や認知心理学、行動経済学などの知見を基にして、新しい診断思考方法を理論的に構築し、シミュレーションや実際の現場で効果を検証しています。効果の高い思考方法を開発することができれば、現場に導入するためにお金も最新の機器も不要であり、研究成果をすぐに現場に活かすことができる点が特徴です。

オンライン診療で身体診察を行う手法を開発する研究は、オンライン診療がより普及する時代を見据えて、距離が離れていても聴診器で心臓の音や呼吸の音をリアルタイムに正確に聴き取ることができる方法の確立を目的とし、すでに開発されている特殊な聴診器を用いて、その精度を様々な通信システムを用いて検証しています。このような聴診が可能となれば、様々な感染症が流行した際に、患者さんも医師も感染する危険性を減らしながら、診察の質を落とすことなく診療することができるようになります。